

令和2年2月27日

令和元年度 特別の教育課程の実施状況等について

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技の開催が予定されている。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている

・一部、計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

(5) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	53.3%	どちらかというと思う	26.7%
どちらかというと思わない	20.0%	思わない	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	53.4%	どちらかというと思う	33.3%
どちらかというと思わない	13.3%	思わない	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	40.0%	どちらかというと思う	20.0%
どちらかというと思わない	26.7%	思わない	13.3%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）

- ・ 子供たちが外国の文化を知る機会となることや、今後の英語学習に抵抗感や不安感を抱かないようにしていくこと。
- ・ 楽しく英語を学び、コミュニケーションが図れること。まずは、楽しく外国語活動に慣れ親しむことができるようにして、「英語が好き」を増やしていきたい。
- ・ ネイティブスピーカーの発音をたくさん聞くこと。
- ・ ジェスチャーや歌などを中心に取り入れていくことで、外国語に抵抗なく慣れ親しむこと。
- ・ 早くから外国の文化や英語に興味関心をもつことで、他者を理解する力を育むこと。
- ・ 英語に慣れ親しみ、3・4年の外国語活動に円滑につながることを。
- ・ 母国語以外の言語があることを知り、慣れること。

(6) 保護者及び学校関係者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	50.0%	どちらかというと思う	28.3%
どちらかというと思わない	17.4%	思わない	4.3%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	74.0%	どちらかというと思う	21.7%
どちらかというと思わない	4.3%	思わない	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	41.3%	どちらかというと思う	39.1%
どちらかというと思わない	17.4%	思わない	2.2%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。（自由記述）

- ・ 英語に興味・関心をもつこと。
- ・ リスニング能力が高まること。
- ・ 英語が楽しいと思えること。
- ・ 英語に苦手意識をもたせないように楽しく活動してもらいたい。
- ・ 英語を好きになること。
- ・ 英語嫌いにならないよう、楽しみながら英語を学んでほしい。
- ・ 外国語を話すことに臆さないよう、また外国語を話せなくてもコミュニケーションを積極的にとれるようになること。
- ・ 外国人に対する偏見が無くなること。
- ・ 楽しみながら慣れ親しむこと。嫌いにさせないこと。
- ・ 楽しんで簡単な挨拶を覚えて、オリンピックで訪れた人々と交流していろいろな経験をすること。
- ・ 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションをとる態度を育むこと。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては、第1学年及び第2学年の児童全員が、外国語活動の時間は「楽しい」「どちらかという楽しい」と答え、外国語活動を楽しんでいる。外国語に慣れ親しみ、進んで外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られる。

一方で、第1学年と第2学年を比べてみると、外国語活動の時間が「楽しい」と答えた児童の割合が90%から64%に減少しているため、苦手意識をもたせない授業の工夫が必要である。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校においては、第1学年から外国語活動を実施してきた第6学年対象外部調査「小学校英検トライアル」において、良い結果が出ており、第1学年から外国語活動を実施することにより、リスニングの力やリーディングの力が着実に付いてきている。

ことが明らかとなっている。

一方で、音と文字の対応について苦手意識をもっている児童もいるため、児童にとって身近で興味があるものつづりが添えられている絵カードを使った言語活動などを行い、音と文字の対応への気付きを促す活動を増やしていきたい。

4. 課題の改善のための取組の方向性

本校の多くの児童が、早い段階から外国語活動に取り組むことで、外国語に慣れ親しみ、外国語活動が「楽しい」と感じている児童が多い。また、進んで外国語でコミュニケーションを図ろうとする児童が多く見られるようになってきている。

しかし、学年が上がるにつれて、外国語活動を楽しめることのできない児童の割合が増えている。次年度から第5学年及び第6学年において、外国語が教科となる。本特例を生かし、教科となっても子供たちが外国語の学習を楽しみ、必要とされるグローバルな視野をもつことができるよう、さらに授業改善を進めていきたい。